

国内研修報告書

<動機>

近年、「JKお散歩」や「JKリフレ」など女子高生による密着なサービスを売りにした「JKビジネス」というものが話題になっている。そこには、家庭や学校には居場所がなく孤立した女子高生たちが集まり、男性側からの需要も高まっている。「ワリキリ」と呼ばれる売春や性犯罪につながることもあり、新玉社会問題として取り上げられている。現代福祉学部として、新たな社会問題の動向について学びたいと感じ、colaboの夜の街歩きスタディーツアーに参加することで福祉に関する知見を深めたいと考えている。

<研修内容>

新宿、秋葉原の夜の街を歩き、現在新たな社会問題となっている、家庭や学校には居場所がなく孤立している「難民高校生」や「難民高校生」となった少女たちを利用した「JKビジネス」など、少女たちを犯罪にさらすようなビジネスが横行している現状を学ぶ。

<効果>

19時～20時

当日は新宿駅で待ち合わせをし、歌舞伎町を散策した。私は以前キャバクラに勤めていたことがあり（学校側からの注意でやめました）、このような世界は未知の世界ではなかった。一通り表の歌舞伎町と呼ばれる、比較的私たちが歩くのに違和感のない場所を歩いた。少し進むとcolaboの方が、「今歩いてきた道に、少女たちをスカウトして風俗業界に紹介しているスカウトマンがいたのわかったかな？」と質問された。私は風俗業界をやめてからもスカウトに声をかけられることはあったので、スカウトや黒服は自然と目で確認し距離をとって歩くようにしていたのですぐ気が付いた。しかし、一緒にツアーに参加していた生徒は気付いていないようだった。スカウトには、はっきりとほかの人とは違う特徴がある。人が歩いている方向と向かい合う形で立ち、何人かで固まっていることが多い。情報交換のためである。歩いてくる少女や女性の容姿を見て声をかける。しかし、普段そのような世界と縁のない人にはまるで目に入らない、気づかない存在であろう。スカウトマンは数撃てば当たる方式で、たくさんの女性に声をかけるので、全く無視することが大事。少しでも話を聞こうとしたら、言葉巧みに風俗業界に入れられてしまうのである。歌舞伎町の裏の通り、

普段私たちが歩く機会はないであろう地区にさしかかると、風景や雰囲気が変わる。あきらかに、風俗店が増え、キャバクラやホストクラブが並ぶ中、「出会いカフェ」や「JK マッサージ」など女子高生がサービスを提供したり、女子高生との出会いの場が目に入る。道路にはスモーク張りの高級車が駐車され、中で何が起きているかは想像できた。

20時～20時30分

秋葉原に移動。

20時30分～21時30分

秋葉原に移動し、喫茶店に入り研修を行った。歌舞伎町のものものしい雰囲気から解放され、少しほっとした気分になった。ここでは、「JK ビジネス」「難民高校生」の実態、リアルな話が聞けた。SNS の普及、携帯電話を誰もが持つような時代になり、今までとは違う形の「難民高校生」が増えているという。今までは、「貧困層」家が貧しい、または親から生活に必要な分のお金をもらえない少女たち、「不安定層」精神的に不安定で誰でもいいからつながりを求め居場所を探している少女たち、が主流であったが、「安定層」という新しい少女たちのタイプが出てきているという。家が貧しいわけでも、精神的に不安定なわけでもない少女たちは、なぜ「JK ビジネス」に足を踏み入れてしまうのか。大学が推薦で決まったりした女子高生が、暇つぶしとお小遣い稼ぎで始めたり、「楽に稼げそう」という安易な気持ちから始めたり、友達に誘われたり。理由は様々であるが、決して想像しているような楽な仕事ではない。そして孤独に苦しむ内容の書き込みをした途端、優しい言葉をかけて、少女たちが必要としているものを与えるのが「JK ビジネス」の操り手のやり方である。衣食住をサポートし、家庭にも学校にも居場所がない少女たちに、優しく相談に乗ってあげたりご飯に連れて行ってあげる。そうして働く少女たちを確保しているのである。一見、非情なようだが、私は「JK ビジネス」は少女たちにとっても必要なものではないだろうか。と感じた。お金がない、居場所がない、では誰が少女たちを救う？誰も気づいてあげなければ飢え死にする、精神を病んで自殺してしまう、「JK ビジネス」は、少女たちを犯罪に巻き込む危険性があるものだが、救っている部分もあるのではないか。少女たちを救えないならこの産業を批判する権利さえないように感じた。言い方は悪いが、家庭からも学校からも社会からも見捨てられた少女たちを利用している形にはなるが、救ってあげているのは唯一この「JK ビジネス」だけではないか。

21時30分～22時30分

秋葉原を散策。歌舞伎町とは雰囲気が全く違い、「女子高生の街」であった。制服の女の子や、メイド姿の女の子が行き交う男性にチラシを配っていた。少女

たちに話をきくと本当に高校生だという。驚いた。

22時30分～

ここで各自振り返り解散した。私はこの研修を通して、仕事に楽な仕事などないということを女子高生に知ってもらいたい。世の中に楽な仕事なんてないのだ。親や周りの大人たちは、本当に苦労してお金を稼いでいることを知ってほしい。

話を聞いて、私は「世の中をなめている」と感じた。まあ、自分が高校生のころはもちろんバイトさえしたことがなかったので人のことは言えないが、キャバクラを始めた理由として、私は家が貧しいというより、親から生活の援助や学費の援助がうけられなかったことにある。奨学金を申請しても却下。誰も助けてくれる人はいない。死ぬ気で働いた日々を思い出した。過労で倒れた。学校側は、私のバイトについて注意をするだけで何の援助もサポートもなかった。スタディーツアーに参加して、自分の過去を思い出し、この業界から抜け出せたこと、支えてくれた人に感謝した。「JK ビジネス」ひどい言葉だが希望はある。高校生だということ。まだ若いから抜け出せる。しかし、彼女たちも経験しているように世の中は甘くないから、誰かが助けてくれる、楽に稼いで大人になったらやめられる、と思っはいけないことだ。私は、キャバクラでやめられず後悔しながら働いているお姉さんたちを見てきた。もしやめたいと思っしていたら、変わるのは今しかないと思う。皆かわいそうだねと同情するだろうが、助けてくれるほどやさしい世の中ではないことを知ってほしい。自分が強くなって、自分のことを信じて、本当にやりたい仕事や目標につながる毎日を送ってほしい。「JK ビジネス」に利用されてきたかもしれないが、経験というのはどのような経験でも自分の糧となる。私は、風俗業界にいたからこそ、スカウトマンなどの危険をほかの人よりも早く感知し避けることができるし、楽な仕事だと世間で思われているけれど、どんな職業よりも大変で、精神的にも身体的にも追い込まれる職業だと知っている。経験したことがない人にはわからないことだと思っ。そんな場所で頑張れたのだから、どこに行っても、どこで働いていても頑張れると思っ。私は自信につながった。今は塾で小学生から高校生までの生徒に勉強を教えている。私は、自分が今までいた業界について客観的に見れたことと同時に、今大学で好きなことを学べていることに感謝し、苦しんでいる少女たちの現状を、助けてあげられる、気にかけてあげられる、自分の利益ではなく子供を守っていこう、という日本人が増えることを願っている。